

宮地市長 市職員の不祥事を受け陳謝

市職員による民生委員・児童委員に対する厚生労働大臣特別表彰状、及び全国民生委員児童委員連合会長表彰状の伝達の怠りに対し、6月9日の本会議一般質問の冒頭、宮地市長から陳謝がありました。

<陳謝要旨>

平成22年に退任された民生委員・児童委員の皆様への厚生労働大臣特別表彰状及び全国民生委員児童委員連合会長表彰状について、その後の伝達を怠り、受賞の皆様方を初め市民の皆様には多大なるご迷惑をおかけし、市政への信用を大きく失墜させたことに深くおわびを申し上げます。

今後はこのような不祥事を二度と起こさぬよう、全職員が緊張感を持って職務に精励し、そして市政への信頼回復に向けて全力を挙げて取り組むよう徹底してまいります。



議員定数・議員報酬は現状維持で

議会活性化調査特別委員会の検討課題である「議員定数」と「議員報酬」の今後について、これまで議論を進めてきましたが、6月18日の委員会で最終的な協議を行い、議員定数については現在のまま28名とし、報酬については現在の金額とすることに決定し、議会で報告を行いました。報告を受け、1人の議員が委員会での協議内容について質疑を行いました。

削減に
賛成！

削減に
慎重！

- 市の厳しい財政状況に対応するために削減はやむなし
- 議会関係予算を削減する観点から4人を減員し24人にすべき
- 市民4,000人当たり1人の議員が適正と判断し、2人減の26人にすべき

- 市町村合併により市の範囲が広がったため、多くの市民意見を市政に活かすためには、現在の議員の数が必要だ
- 一定程度の報酬額を維持しなければ、熱意を持ったこれからの議員立候補者が出てこないのではないか

市民の要望がなぜ反映されないのか

新風会 岡田康弘

問 津山市連合町内会から定数削減の強い要望が出されていると聞いたが、多くの市民の意見がなぜ反映されないのか、また、どのような議論がなされたのか。

答 連合町内会からの要望は重く受け止め、真摯に協議していく必要性はあるものの、報酬・定数削減だけでは問題の根本的な解決にはならないとの議論があり、引き続き検討する必要はあると委員会では意見が一致した。今後も議会活動の中で市民の意見をしっかりと聞き、市政発展に反映していきたい。